

# ハイライトよねやま 25

(財)ロータリー米山記念奨学会

2002年4月5日発行

## 1. 寄付金速報 ～ 寄付の新しい“きっかけ”づくりを

3月までの寄付金収入は14億2千万円、前年同期比で約7千万円(4.8%)の減少。

あるクラブのご夫人の会から創立記念として寄付をいただいた。定年などご自分の記念として寄付をいただくこともある。寄付金収入は依然厳しい状況が続いているが、このような新しい形で米山奨学事業へご賛同の意志を示していただけることに深く感謝するとともに、これからの寄付のきっかけづくりに繋げていきたい。

米山奨学会への寄付金はすべて奨学生支援に使われている。

## 2. 2002学年度米山奨学生1,000名が決定 ～ 中国籍奨学生が47.1%

2002学年度奨学生1,000名が決定した。奨学金種類別では、YU(学部)・YM(修士)・YD(博士)奨学生が、新規採用者660名と継続奨学生276名をあわせて936名。ほか特別な奨学金として、CY奨学生(博士課程の延長制度)31名、SY-S奨学生(元米山奨学生の短期研修)12名、SY-A奨学生(韓国・台湾学友会推薦の上級研究員)9名、SY-1奨学生(農業および地域指導者)12名が採用となった。

国籍割合では、中国籍が全体の47.1%を占めている。(2002年4月1日現在)

## 3. 米山奨学生は私の地区の宝物

「米山奨学生は私の地区(2520岩手県)の宝物ですよ・・・」と語るのは、同地区の米山奨学委員長を長年務めている小山亥一郎さん。ロータリーの精神は米山奨学事業に有りということを念頭に、毎年米山奨学生を伴って世話経験の無い地区内のロータリー・クラブに卓話に出かけている。初めて米山奨学生に出会う会員は、「なぜ、岩手県を留学の地に選んだの?」という素朴な質問を寄せる。「岩手の農産物や産業の研究をしている」「指導してほしい教授がここにいたから」etc. こうした内容にロータリアンの誰もが親近感を持ってくれるという。そんな中で、いきなり功労者になってくれた会員もいた。岩手県はロータリー・クラブ数45、大学数6、大学所在地が偏っている関係から世話クラブ経験率は15.6%という地区である。経験率が低く、ロータリアンが米山奨学生にも会ったことが無いということになり兼ねない状況からも、卓話巡りは毎年行われている。こうした活動が、米山奨学事業を会員一人ひとりに浸透させ、寄付の増進につながった。

このたび2002学年度米山奨学生採用において13名の余剰数が生じたため、個人平均寄付額の伸びが大きかった上位7地区と寄付金総額上位6地区に、各1名ずつ奨学生の追加割当が行われた。この中にももちろん2520(個人平均1,044円増)地区が入っている。(栗原)

(財)ロータリー米山記念奨学会 担当: <sup>おおぼ</sup>大庭・<sup>みやげ</sup>三宅  
〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3 abc会館ビル8階  
Tel: 03-3434-8681 Fax: 03-3578-8281